

第2回 明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会
議事要旨

- 1 開催日時 : 平成30年3月22日(木) 14:00~15:00
- 2 開催場所 : 明治大学黒川農場 会議室
- 3 出席者 : [会長] 針谷農場長
[委員] 藤原委員、山崎委員、梅澤委員、市川委員、室井委員、
山口委員、赤坂委員、
(欠席) 小清水委員、佐倉委員、新井委員、萩原委員、草野委員
(代理出席) 伊藤委員(松原委員の代理)
[事務局] 農産物等研究専門部会 農地課 二郷課長、地引係長
地域活性化検討専門部会 企画課 安藤課長、福島係長
里地里山保全活用専門部会 みどりの協働推進課 葦澤課長、
緒方係長

4 議事

《平成29年度の取り組みについて》

【農産物等研究専門部会】

- ・農1 「大学と農家の意見交換会」については、開催について調整を行った。
- ・農2 「アスパラガスの新たな栽培方法「採りっきり栽培」の実施」については、現地調査を7回実施した。
- ・農3 「農産物に関する講習会」については、アスパラガスに関して、6月、12月、3月に実施した。
- ・農4 「地元農業者との農産加工品等に関する検討」については、明大黒川農場収穫祭に合わせて、PRを行った。
- ・農5 「黒川野菜・果物等のPR」については、明大黒川農場収穫祭に野菜・果物等を販売しPRを行った。

【地域活性化検討専門部会】

- ・地1 「サイン・散策マップの検討・試行」について、明大黒川農場収穫祭に合わせて実施した美術展の作品案内とともに散策マップを作成した。竹を使った案内を掲示した。作品間の距離感が分かりづらいとの意見をいただいた。また、黒川駅前に作品とともに全体の総合案内を設置した。
- ・地2 「里山景観づくりの検討・試行」について、花を地元の方が植えている人がいる。引き続き検討していく。
- ・地3 「HP等による取り組み照会とイベントPR」について、ホームページ「農と環境のあるまちづくり」での掲載とともに、運用を開始した「川崎市イベントアプリ」でも情報発信を実施。ツイッターでの発信も行っている。収穫祭でのアンケートでは183

件の回答をいただいた。

- ・地4「グリーンツーリズム」について、今年度は2回実施した。7月22日にはトマト&ブルーベリー、12月にはダイコン収穫体験を行った。トマト&ブルーベリーについては、20~30代をモニター募集。SNS、イベントアプリについての関心が高かった。ダイコンについては、農家さん・小清水先生の御協力を得て実施できた。対象は親子連れ。収穫体験と大学の見学ができて有意義だったという御意見等をいただいた。
- ・地5「菜の花プロジェクト」について、明大のほ場の他、区内7か所で菜の花栽培をした。油を取り収穫祭でクッキー販売を実施した。今年度で区切りとなるが、市民団体は、今後も明大とも協力して進めていくとのこと。
- ・地6「里山アート制作と展示」について、サトヤマアートサンポと連携して3年目になる。和光大学表現学部の学生と卒業生の作品を展示した。作品集も作成し、また、汁守神社での展示も実施した。JAさんの御協力を得て、セレスモスでの展示も実施した。

【里地里山保全利活用専門部会】

- ・里1「竹あんどんづくり」について、地元小中学生を対象に実施した。昨年度に引き続き2回目の開催ということもあり、予定時刻より早く終えることができた。今後は、募集方法及び対象年齢の検討をしていく。
- ・里2「里山保全活動体験」について、里山保全活動の担い手づくりにつながるイベントとして実施。短時間で成果が出て達成感があり、高い満足度を得ることができた。多くの参加者が見られ、PRも進んでいると考えている。

【意見等】

- ・4月、市長のアスパラガス収穫体験の実施を予定している。
- ・アスパラガスは、既にセレスモスに出荷されている。
- ・景観づくりについて、地元農家さんが個人的にも努力されている。

《次年度以降の取り組みについて》

【明治大学・川崎市 地域連携協議会】

- ・平成30年度は、平成29年度と同様に、協議会、部会、意見交換会を実施していく。
- ・新年度で委員も代わるので、再度調整していく。

【農産物等研究専門部会】

- ・現計画の3か年目なので、平成29年度と同様に進めていく。

【地域活性化検討専門部会】

- ・平成29年度と同様に進めていく。散策マップについては、常設のサインの必要性についてもお諮りしながら取り組んでいく。HP等でのPRについて、丁寧に数多く行っていく。

【里地里山利活用専門部会】

- ・平成29年度と同様に進めていく。竹あんどんについては、募集方法を工夫していく。

【意見等】

- ・明治大学とは地域産学連携研究センターにおいて、理工学部とものづくり企業との連携も進んでいる。改めて明治大学に感謝したい。
- ・イベントに参加者負担はあるのか。地域資源を経済的に還元できる仕組みを研究してみてもどうか。
- ・ダイコン収穫体験では参加者による費用負担がある。
- ・竹あんどんに関しては、一昨年から収穫祭において販売を行っている。